



# 日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 千葉 (22) 7207 番

91.8.15 No. 3446



東郷平八郎

皇国の興廢、  
この一戦にあり  
全員一層奮励努力せよ

—日本海開戦にあたっての激—

8月15日

四十六回目の  
「敗戦記念日」  
にあたって



与謝野晶子

君死にたまふことなけれ 唯一の間  
君死にたまふことなけれ 唯だ一つ、あなたに  
(天皇) すめらみことは、戦ひに お尋ねします。  
(御自身) おほみづからは出でませぬ、 あなたは、今、  
(かたみ) 互に人の血を流し、 民衆の中に在るのか、  
獣の道に死ねよとは、 民衆の外に在るのか、  
死ぬるを人の 誉れとは、 そのお答え次第で、  
(ほま) おほみこころの深ければ、 あなたと私とは  
もとより如何で思 されよ。 (えいごう) 永劫、天と地に  
別れてしまひます。

東郷が、「皇国の興廢、この一戦にあり」と檄をとばした日露戦争のさなか、晶子は「君死にたまふことなけれ」を発表した。ただちに「国賊だ」と非難の火の手があがった。「乱臣なり、賊子(ぞくし)なり、国家の刑罰を加

—そして、反対する者は、「国賊」となる。

福岡では、「日の丸、君が代」に反対した先生に、ついに停職処分が出された。「教育」という国家管理されたベルトコンベアーにのせられて「軍国少年」「皇国少年」が次々とつくり出されようとしている。

今年の教科書に東郷平八郎が復活したのだという。一瞬耳をうたがう思いがした。しかし、後で聞くと、そのかわりに与謝野晶子が消えたというのだ。これにはもうがく然とした。子供たちは、「あなたは、今、民衆の中に在るのか」ではなく「皇国の興廢、この一戦にあり！」という精神で教育されるというのだ。

—忘れ、そしてくり返す。

ふべき罪人なり」「国は滅びてもよいというは余りに大胆すぎる言葉なり」……しかし晶子は毅然として「当節のやうに死ねよ死ねよと申し候うこそ、又なんごとも忠君愛国などの文字や、おそれおき教育勅語など引き論ずることの流行は、この方かえって危険と申すものに候はずや」と応えた。

一片の「政令」によって自衛隊が海外派兵されたその年に、東郷平八郎が復活し、与謝野晶子が消えた。言うまでもないことだが、ここには、明白な「意図」が貫かれている。それは自衛隊派兵に反対する者を「国賊」として葬ろうとする意思だ。自衛隊を「皇軍」にしたてあげようとする策謀だ。そして、また再び侵略戦争に民衆をかりたてようとする決意だ。

大学生に「八月十五日は何の日か」とアンケートをとると、ほとんどの者が「知りません」と答えるという。しかし、アジアの全ての国々では今も、日本に侵略され、じゅうりんされた歴史を絶対に「忘れてはならないこと」として、克明に教えつづけている。日本人だけが、侵略の歴史を忘れ、同じ過ちをくり返そうとしている。

四十六回目の「敗戦記念日」は、われわれの上に重くのしかかっている。「墨で書かれた虚言は、血で書かれた事実を隠すことはできない。血債(けっさい)は必ず同一物で返済されなくてはならない。支払いが遅ければ遅いほど、利息は増さなければならぬ」

(魯迅)